



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **25**
2019.5.10

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：上田西高校の訪問／山ノ内南小学校の研修／飯田市高遠中学校・上村小学校・長野市信里小学校の訪問

4月15日 上田西高の米国チャータースクール歓迎会を見学しました

上田西高はユネスコスクールに申請し、認定を待っている段階とのことで、信州ESDコンソーシアムの説明を兼ねて歓迎行事も拝見させていただきました。ユネスコスクール担当の宮島教頭さんに学校の概要や国際交流などについてお聞きしました。10時よりの体育館での歓迎会は全て生徒の準備、進行で行われました。引率教員4名に19名の来日生徒には日本側生徒がそれぞれ終始案内、説明をおこなっていました。司会、進行は英語で進み、女子は着物姿で日本を感じさせる色鮮やかな演出でした。歓迎式は青木村の百姓一揆にちなむ義民太鼓の勇壮な演技で始まり、日米それぞれの学園生活の紹介、プレゼント交換などで進行しました。その後、学園の学食での牛丼にはしでチャレンジしていました。生徒による進行はPPの音声不調などやや不備もあり、先生方は心配ではあったが任せることに意味があるのと言っていました。午後は、すし作りや華道、茶道、剣道など各種クラブ活動との交流をおこなうとのことでした。一行は昨日は上田城の桜を満喫して、本日の来校歓迎会に臨んでおり良い季節と共に日本の学校を十分楽しめたのではないのでしょうか。5月には上田西高からアメリカに短期留学生の帰国報告会があるとのことで、海外交流もユネスコ事業の柱になっているとのことでした。



(渡辺隆一・中野清史)

4月17日 山ノ内町立南小学校でESD研修会を開催しました

学校側からのご依頼は「新しく赴任して来られた先生が多いので、ESDの初歩から教えて欲しい」というもの。担当の先生と相談して、簡単な座学研修とESDカレンダー作成のワークショップを実施することになりました。

当日は、ESD/SDGsの要点を簡単にお伝えしてから、いよいよ本命のワークショップへ。昨年までにもESD授業の経験のある先生は、総合・生活の時間を軸にしたストーリーと領域・教科とのつながりのブラッシュアップを中心に。新しく赴任して来られた先生は、「去年はこんなことをしたよ」「こんな人にも協力してもらえないかな」「こんな展開もできそうだよ」というアドバイスを受けながらESD授業の見通しを立てていくことを中心に。先生方が知恵を出し合いながら、みんなでESD授業の可能性を考える時間を持つことができました。



(水谷瑞希)

4月24日 飯田市上村小学校への訪問

上村小学校・和田小学校・遠山中学校が今年2月にユネスコスクールに申請しチャレンジ期間になったのでその活動内容などをお聞きし、今後の進め方などを打合せした。小学校玄関では校長先生とカモシカが出迎えてくれて自然豊かな地域とわかりました。上村小学校に遠山中学校有賀教頭にもおいでいただき、村松校長・小林担当教諭から両校の資料をもとに学習内容をお聞きした。上村小は「山あいの小さな小学校の世界につながる大きな挑戦！」を目標にSDGsを指標とした様々な学習を展開している。特に霜月祭での子どもたちの神楽は地域の伝統を引き継ぐ行事として大切にされていることが語られ、地区ごとに異なる神楽をそれぞれに学ぶ苦労がある



ことがわかった。こうした地域の伝統は環境と人々の生活の関係の中で育まれた文化であり、世界的視点からみればこの地域固有の文化といえ、それは世界に誇るべきものでもあるでしょう。こうした世界への視点こそがユネスコスクールの根底にある理念ではないかと考えさせられた。今年はへき地教育の全国大会も引き受けているとのことで、ユネスコ活動とどう重ねるかが課題となっていた。遠山中学では、「住み続けられる地域づくり」を目標に、飯田市のLG教育(ローカル&グローバル)とESD教育の観点から活動をすすめている。特に和田・上村両小学校とともにESDの教員研修もおこない、小中一貫のキャリア教育を計画、実践している。本地域は南アルプスエコパークの中にあるが特にそれを意識した学習はないが山岳地域という特性を生かした学習が多々おこなわれており、それらはユネスコの「人と自然の共生」の理念にも対応するもので今後の展開が期待されます。1年後に活動の確認がおこなわれるとユネスコスクールに認定されることになります。

(水谷瑞希・渡辺隆一)

4月25日 長野市立信里小学校への訪問

信里小学校は、2018年にユネスコスクールに申請し1年間のチャレンジ期間を終えて内容確認をユネスコユニバーシティ(AspUniv)である信州大学教育学部

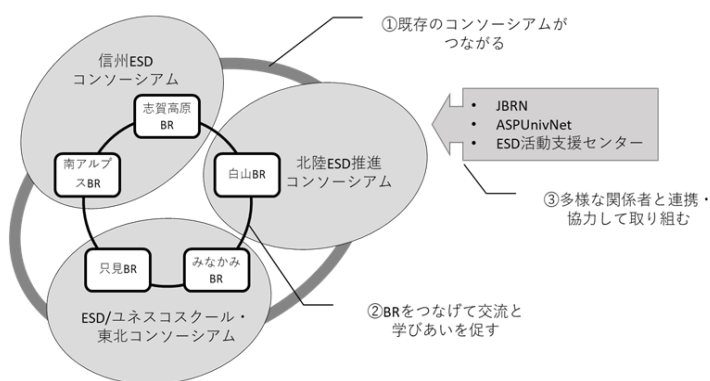


に求めてきており、その資料確認のために信州ESDコンソーシアムコーディネーターの3名が伺いました。事前資料から当小は、国際交流から県外校との防災交流、

更科農高との栽培交流、大岡小との合同高原学習、信州大学教育学部学生との地域の危険調べ、地域行事への参加、

今年度事業について

今年度の文科省のESD推進事業に、「ユネスコエコパークを活用した学校教育におけるESD/SDGsの普及・深化と実践モデルの開発」のタイトルで応募し、採択されました。内容は「ユネスコエコパーク(BR)地域のESD/SDGsを支援するESDコンソーシアムが連携し、学校教育でのESD/SDGsの実践やユネスコスクールへの支援を加速させる。また、生物圏保護区(BR)間の交流と学びあいや実践の共有を通じてESD/SDGsの普及と深化を促進する。国内BRすべてをつなぐESDネットワークを構築するとともに、実践事例にもとづくESD/SDGs実践モデルの開発を目指す。」です。関係者のご協力により、ESDの一層の推進、発展が期待されます。



SDGs
ニュース

長野県はSDGsに取組む企業を支援するための「企業登録制度」を始めました。「県内企業等の取組がSDGsにどのように貢献しているかなどの「気付き」を促し、SDGs達成に向けた具体的な取組を促進することで、企業等の価値向上や競争力の強化などを図る目的とした制度です(長野県HPより)」。企業にもこのようにSDGsへの取組みが普及してきました。ESDが真に持続可能な地域創生の基盤となるためには、学校のみならず、NPO、企業、行政など多様なセクターの協同が必要であり、こうした制度もその連携の芽の一步といえるでしょう。



信州ESD通信
No.25 2019.5.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：高橋／大山 TEL026-238-4034 kyoesd@shinshu-u.ac.jp